

1. 第2回専門部会議事要旨及びご質問に対する回答等

(1) 第2回建設候補地選定専門部会(平成23年10月24日開催)議事要旨

1. 第1回専門部会でのご質問に対する回答等

- ・第1回施設整備基本計画検討専門部会では、「焼却炉とメタン化施設は、一体に整備するのが合理的である。」という考えが提示された。

2. 建設候補地選定の手順と作業計画(スケジュール)

①補助金申請時期の変更に伴うスケジュールの変更について

- ・2013年に国に高効率型発電の補助金の交付申請をするために、2012年12月には循環型社会形成推進地域計画を国に提出する必要がある、そのため地域計画の作成・提出は当初の予定より一年前倒しすることとなった。この地域計画に載せる施設の情報は施設の大まかな規模、台数、場所によいため、建設候補地の選定の時期は、当初予定していた2012年2月から2012年4月くらいまで検討期間が延長となった。

②二次選定以降のスケジュールについて

- ・一次選定までは期間を短くし、二次選定や最終決定に時間をかけるというようなバランスが必要である。
- ・今のスケジュールでは4月まで両部会が並行して議論しているが、2つの専門部会を1つにしてそこで検討委員会としての結論を出す場を設けるべきである。

③広報について

- ・広報の主体は検討委員会とすべきである。意見募集の内容も、候補地選定だけでなく施設のあり方についても聞くべきである。
- ・一次選定の段階からプロセスを透明化するという観点から、出来るだけ早く広報することが大事である。詳細な内容は環境広報ECOまちだに掲載するということもありえる。

3. 建設候補地一次選定(案)

- ・町田市防災課から、断層が町田市内を通っている可能性があり、調査をするということを知った。断層がないという説明は防災課の話と矛盾する。
- ・井戸があれば確認をしてほしい。
- ・本資料を公開する場合は、一次選定の条件に、誤解が生じないようにしっかりと説明を加えるべきである。
- ・一次選定に関するマップ等の資料は公開すべきである。このような手順で考えているということを見せる必要がある。公開しなければ市民がプロセスに対し疑心暗鬼になる可能性がある。

4. 関連して取り扱う事項について

- ・周辺の環境、景観、付帯機能については、ある程度地区が決まってから、地区の人たちが何を望むのかを踏まえて議論をすべきではないか。
- ・施設ができて周辺環境がこんなによくなるということも、住民に周知すべきである。
- ・地元への環境配慮もしっかりとしていく必要がある。
- ・施設設置による、付帯機能や付随する効果といったメリットとデメリットを両方示していくべきである。
- ・迷惑施設とはいえ公共施設なので、住民の負担がある場合にはケアが必要である。

以上

1. 第1回専門部会でのご質問に対する回答等

- ・メタン発酵施設で作る電気量よりも使用電力量の方が多くなる可能性があるため、アンケートにより町田市の場合はどうなるのかというエネルギー収支のデータに基づいて、処理方式を最終的に判断すべき。
- ・処理方式の評価には多様な判断基準があるため、評価方法そのものを本部会でしっかり議論する。
- ・その施設単独のエネルギー収支だけで評価するのではなく、生ごみの堆肥化に代表される個人の取組など、基本計画で挙げられている資源化ということを前提に取り組みべき。
- ・メーカーアンケートと並行して、実績のあるメーカーに問題点や良い点を聞くことで、採用判断を早めることができる。
- ・各施設でどの廃棄物をどの程度処理するかという廃棄物のフローや処理方式全体に関する事項を12月、1月に決定する。各施設の具体的な内容を2012年2月から4月にかけて順次検討し、5月頃に処理方式の最終決定をすることとする。

2. 処理方式について

- ・エネルギー回収推進施設の選定基準は、「安定稼動」をもっとも重視している。それゆえ、今までの実績から熱回収施設であるごみ焼却施設とガス化熔融施設が候補である。

3. メーカーアンケート項目と内容について

- ・アンケート用紙には、物質収支、要するにエネルギー収支やメタンの湿式か乾式の条件、反応率、滞留時間も出して欲しい。

①環境に対する規制について

- ・規制について、本部会でしっかり議論したい。「CO₂排出量」も含め、現状の施設との比較を行いたい。
- ・自主規制値は、煤塵は0.005g/m³_N、硫黄酸化物(SO_x)は10ppm、塩化水素は10ppm、窒素酸化物(NO_x)は10ppm、ダイオキシンは0.01ng-TEQ/m³_Nとする。

②資源ごみ処理施設の立地について

- ・資源ごみ処理施設の整備はどのように行うのか? 「ごみメタン化施設」「熱回収施設」と「不燃・粗大処理施設」が一箇所に集約整備されるため、これにあわせて全てを一箇所に集中させるのは避けるべきではないか。
- ・施設を受け入れる地域の住民への配慮が必要である。
- ・資源ごみ施設は、他の3つの施設とは分離して建設するものとし、1箇所に整備した場合と2箇所に整備した場合の双方について検討を行う。

③施設の大きさについて

- ・アンケート調査において、施設の基数、大きさ、建物高さなども把握してほしい。

以上

(3) 第3回施設整備基本計画専門部会(平成23年12月8日開催)議事要旨

※12月14日当日に配布させていただきます。

(4)ご質問に対する回答等

ご質問①：

- ・町田市内の断層について再度確認してほしい。



回答等：

町田市周辺には立川断層がありますが、市内を通過してはおりません。東日本大震災以降、この断層における地震の発生確率が高くなっている可能性があると言われてはいますが、断層帯が拡大して町田市内を通るようになったということではありません。

市民部防災安全課にヒアリングしたところ、次のような回答が得られました。

「自主防災組織のてびき」で

※町田市の断層について

町田市周辺の断層としては、「立川断層帯」がありますが、政府の地震調査研究推進本部によると、この断層帯は、埼玉県入間郡名栗村から東京都立川市を経て、東京都府中市に至る、長さ約33kmの断層帯のことを言います。

地震調査研究推進本部は、30年以内にマグニチュード7.4程度の地震が発生する確率を約0.5～2%と評価していましたが、2011年6月9日に東日本大震災が全国の活断層に及ぼした影響を評価した結果、立川断層帯では地震発生確率が高くなっている可能性があるとして発表しました。

と解説しており、あくまで地震調査研究推進本部の見解を引用しているのみで、活断層について、市独自の調査を行う予定はない。

右図は地震調査研究推進本部のホームページで公開している資料であり、立川断層帯は町田市内を通過していません。

なお、町田市内の断層の有無を確認するために参考とした国土地理院「都市圏活断層図」は、平成7～8年に調査・編集されたものです。



ご質問②：

- ・町田市内の井戸の有無について確認してほしい。



回答等：

2011年3月発行の「町田市水道事業統計年報（2009年度） 水源施設の概要」のとおり、現在使用している井戸は6箇所存在します。

これらの井戸は、水道水利用の取水目的で使用されています。給水課へのヒアリングの結果、今後規模の拡張・縮小や、新たな井戸を建設する予定はありません。なお、現在停止中の原町田水源については、将来において再度取水する可能性があります。

§ 4. 配水の状況

1. 水源施設の概要

水源井の名称	所在地	水源標高 (m)	さく井竣工 年 月 日	井戸の深度 (m)	敷地面積 (㎡)	竣工時 自然水位 (m)	1日平均 揚水量 (㎡)	年間揚水量 (㎡)	備 考
原町田水源	原町田5-13-3	70.0	1952.12. 1	6	原町田 浄水所内	70.0	0	0	2002.9.24より停止
本町田一号水源	本町田867	64.0	1965. 5.15	180	101.30	46.0	416	151,800	
本町田二号水源	本町田3450	76.0	1966. 5.10	180	107.69	59.5	624	227,600	
野津田水源	野津田町3398	90.0	1968. 3.30	200	70.10	64.7	846	308,900	
滝の沢水源	旭町2-7-7	92.0	1959. 3. 2	200	滝の沢 浄水所内	82.0	1,224	446,900	
木曾一号水源	木曾町504	95.0	1960. 4. 6	180	76.53	79.1	918	334,900	
木曾二号水源	木曾東4-13	97.5	1967. 4.28	180	69.70	81.2	918	334,900	
相原水源	相原町2562	165.0	1967.10.20	180	191.56	164.5	0	0	1984.12.1より休止
計		—	—	—	—	—	4,946	1,805,000	

処理施設からの排水は適切に処理されるため影響はほとんどないと考えられますが、今後の環境影響調査にて井戸への影響を確認します。また処理施設で使用する水は井水を使用することが多いため、本施設も井水を使用することになった場合には、地質調査で周辺の井戸への影響を確認します。

ご質問③：

- ・建設候補地の決定までに検討委員会としての結論を出す場を設けるなど、最終的には検討委員会で議論するような形にするのが望ましいのではないか。



回答等：

両部会と検討委員会の開催を順序だてて計画し、できるだけ議論の時間を確保するようにしますが、補助金の交付申請を踏まえた全体のスケジュールを考慮して判断したいと考えています。詳細は9ページでご説明します。

ご質問④：

- ・処理施設ができることによる付帯機能や付随する効果といったメリットと、デメリットの両方をしっかりと示してほしい。



回答等：

今までの委員の皆さんのご意見に基づくと、以下のように整理できます。今後も地域の方々との意見交換や当部会での議論を踏まえ、引き続き整理していきたいと思えます。

メリット	デメリット
道路整備による地域の活性化	臭気
雇用の確保	農家への風評被害
施設が近隣に設置されることによる住民の環境意識の高まり	

2. 市民意見募集の広報について

(1) 自治会連合会を通じたの周知

- ・11月7日の地区町会にて連合会会長に概要を説明した後、各町内会自治会長（約300箇所）へ回覧板部数12700枚を送付
→[資料2](#)参照

(2) 広報まちだ

- ・2011年11月11日号の一面に、「建設候補地選定の進め方・評価の視点（案）がまとまりました」という見出しで記事掲載、また環境広報 eco まちだ 11月21日創刊準備号にも記事掲載
→[資料3](#)参照

(3) ホームページ上での広報

町田市のホームページ内で広報

- ・「2011年11月9日開催 市長記者会見資料」（更新日2011年11月9日）
→[資料4](#)参照
- ・「広報まちだ 2011年11月11日号」（更新日2011年11月11日）
→[資料3](#)参照
- ・「ごみの資源化施設・建設候補地選定に関する意見を募集します」（更新日2011年11月11日）
→[資料5](#)参照
- ・「環境広報 eco まちだ 11月21日創刊準備号」（更新日2011年11月24日）
→[資料3](#)参照

(4) まちテレ

- ・まちテレ vol.70 町田市のニュースを届ける「City SCOOP」シリーズにて「新しい資源化施設 建設候補地選定 意見募集」11月25日から12月8日まで新作扱いで放映。
本件の特集時間は約2分程度 検討の背景～意見募集の概要のPR

The logo for 'まちテレ' (Machi TV) features the characters 'まち' in white on a red background and 'テレ' in white on a blue background, all contained within a white rectangular border.

5分間のストーリーで町田市を紹介する市の広報番組です。隔週で新作に更新します。番組は、ケーブルテレビや [You Tube](#)、[Yahoo!オフィシャルチャンネル](#) でご覧いただけます。

3. 今後の意見募集について

(1) 基本的な考え方

意見募集の種類	広報・意見募集等の目的	方法	意見を募集する内容
候補地域およびその周辺を対象とした市民との意見交換	<ul style="list-style-type: none"> 一次選定(案)の検討段階で候補地域となったエリアおよびその周辺において、検討の進捗状況を報告する。 また、地域住民の課題認識、ニーズや整備の方向性について意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 現時点の一次選定(案)を活用し、地域住民との意見交換会を開催する。 市域5箇所程度の地域センター等で開催するものとするが、対象者は当該地域に限定せず全市民が参加可能なものとする。 開催に先立ち、「広報まちだ」等にて意見交換会の開催を周知する。 意見交換会の場合には、事務局より現在の検討状況を報告し、地域の方々より意見をいただく。 できるだけ部会委員の皆様にもご同席いただき、部会や委員会への状況報告にご協力いただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①建設候補地選定の方法、考え方等 <ul style="list-style-type: none"> ・一次選定(案) ・二次選定の手法 ②市民とのコンセンサス形成の方法、考え方等 ③施設整備計画について ④周辺環境・景観への配慮、施設の付帯機能について
広く一般市民を対象とした意見募集	<ul style="list-style-type: none"> 計画内容の周知を図る。 広範囲な市民や関係者の意見を収集する。 	2011年11月に行った意見募集と同様に、 <ul style="list-style-type: none"> ①自治会連合会を通じた周知 ②広報まちだ ③環境広報 ④ホームページ上での広報 ⑤まちテレ といった媒体を用いて広報、意見募集を行う。	同上

【建設候補地選定の進め方・評価の視点(検討項目)】案



